2012年（平成24年）
3月17日
土曜日
夕刊

被災地を紙芝居師巡る　11面
石巻・大川小で卒業式　10面

靴の街 若き職人育つ

1970年代まで多くの靴会社があった名古屋市西区。安い海外製品に押されて衰退が続く中、高い技術を残そうと10年前に開校した靴作りスクールから若い職人が育っている。オーダーメード靴の店もオープンし、新たな挑戦も始まった。

多くの受講生が学ぶ靴デザイン・クラフトスクール。中央で教えるのは姫木猛雄さん＝名古屋市西区栄生1丁目

名古屋のスクール 開校10年

靴デザイン・クラフトスクール（同市西区栄生1丁目）は、名古屋靴工業協同組合（すでに解散）の元代表理事、吉田明輝さんが10年前に立ち上げた。吉田さんは2010年夏に66歳で亡くなったが、「衰退する地場産業を守り、靴作りの技術を若手に引き継ごう」という遺志は妻とめ子さん（64）らに引き継がれた。

スクールでは10年間で延べ約1千人が受講した。亡くなった吉田さんをはじめ地元の職人たちから、革の縫製や底付（ボトムス）などの靴作りの技術を学んだ。

開校当初に入校した鈴木達也さん（33）は、約6年かけて一人前の職人に。08年には、全国の業界団体が運営する革靴製造技能試験で、最も優秀な「底付技能1級」を東海地区で初めて取得した。09年、名古屋市西区名駅2丁目に吉田さんが開いたオーダーメード靴の店「シューズ・ボナンザ」で店長を務め、スクールでも指導する。

一足ずつ丁寧に作った靴は3万円前後と、既製品より割高だが、足にぴったり合うだけでなく、修理すれば長く使える。鈴木さんは「足に悩みを抱えた人や、おしゃれに気を使う人が訪ねてきてくれる。こだわりのあるお客さんが増えている」という。

就職先確保 悩みの種

4月からボナンザで職人としての一歩を踏み出す姫木猛雄さん（27）は、住宅メーカーに勤めていたが、靴好きが高じて4年前に入校した。「格好いい」と感じたデザインの靴を買い集め、コレクションは60足に上ったことも。「将来は独立して自分の店を持ちたい」と夢を描く。

しかし、スクールを巣立っても、技術を生かせる就職先がなかなか確保できないのがとめ子さんの悩みだ。修了生を大手メーカーに紹介しても、販売員の求人しかないことも多い。オーダーメード靴の店は、ボナンザのほかに市内に数軒あるが、まだ少ない。

とめ子さんは「一度でいいから、手作りの靴を履いて良さを実感してほしい。良さを知ってもらえれば、靴職人の働く場を残すことにもつながる」という。

問い合わせはスクール（052・581・2728）やボナンザ（052・564・5900）へ。

（小若理恵）

名古屋市西区の靴作り

江戸時代は皮革で太鼓などを作っていたが、明治時代に靴作りが始まった。第2次世界大戦前から軍用靴工場ができ、産業化。戦後は名古屋駅や消費地に近いことから婦人・紳士靴の製造が盛んに。最盛期の1970年代には家内工業も含め100社近くあったが、安価な中国製品などの流入で衰退。約50社が加盟していた名古屋靴工業協同組合も2010年に解散した。